Vol.029
2020年6月号

キラリと光るダイセル製品のお得情報が満載！

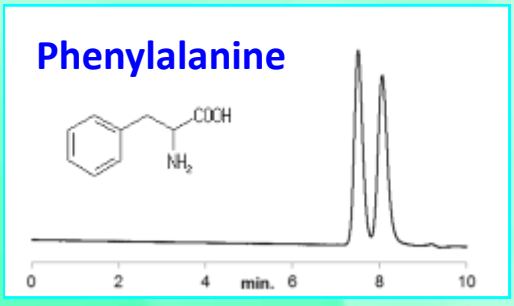
キラきら情報通信@ダイセル

アミノ酸分離でも キラルカラムが活躍！

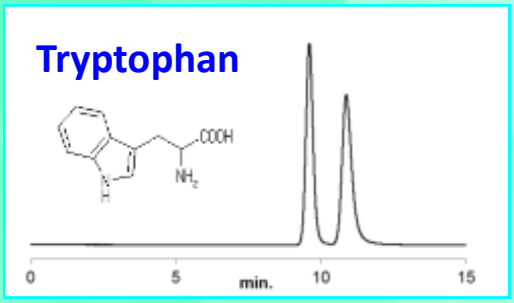
「アミノ酸」の光学分割が得意なキラルカラム **CROWNPAK CR-I** と **CHIRALPAK ZWIX**をご紹介します。
アミノ酸の多くは、D体およびL体の光学異性体が存在します。そのため様々な分野(化粧品、食品、医薬品など)ではアミノ酸の化学純度だけでなく、光学純度にも重要になってきております。

第一級アミノ基を有するアミノ酸 に
CROWNPAK® CR-I

Phenylalanine



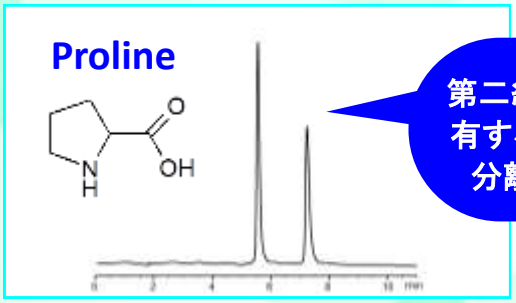
Tryptophan



Column: CROWNPAK® CR-I(+)
Column size: 0.3x15cmL
Flow rate: 0.1mL/min
Mobile phase:HCOOHaq.(pH2.0)/CH_3CN =90/10 (v/v)
Detect.: UV254nm
Temp: 25°C

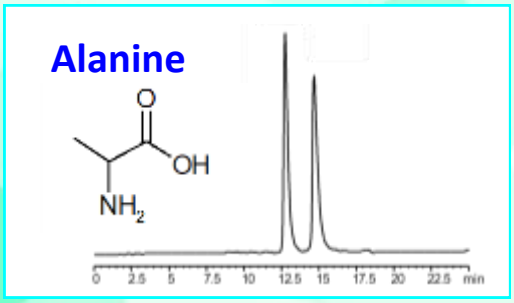
アミノ酸のような両性化合物の分離 に
CHIRALPAK® ZWIX

Proline



第二級アミノ基を有するアミノ酸も分離できる！

Alanine



Column: CHIRALPAK® ZWIX(+)
Column size: 0.3x25cmL
Flow rate: 0.50 mL/min (Proline), 0.45 mL/min (Alanine)
Additives: 50mM FA+25mM DEA, Bulk
Mobile phase: MeOH/MeCN/H_2O 49/49/2 (v/v)
Detect: ELSD
Temp: 25°C

次頁へ続く↓↓

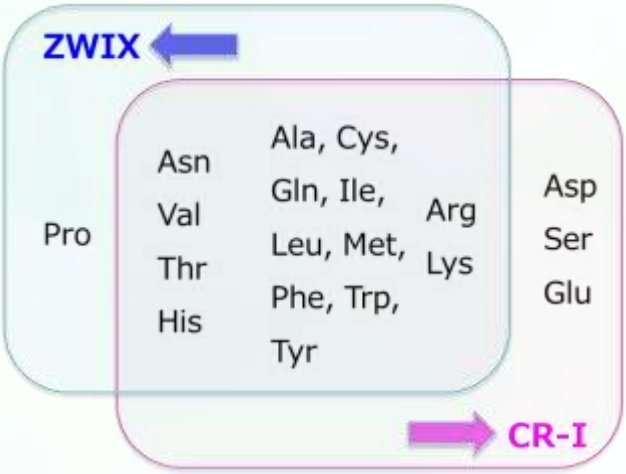
キラきら情報通信@ダイセル

Vol.029
2020年6月号

代表的な「アミノ酸」の多くは**CROWNPAK CR-I** または **CHIRALPAK ZWIX**のいづれかで分離することができます。

アミノ酸に関する分離例も「キラルアプリケーションノサーチ」に掲載しておりますので、是非ご覧ください！
https://search.daicelchiral.com/

「化合物名」
で検索！



ダイセル社員が溺愛！
私の好きなダイセルカラム

育ててくれたCHIRALPAK® AD
強くしてくれたCHIRALPAK® IA

企画開発室 ふたがわさん編

私が若かりし頃（今から四半世紀前・・・）、今でいう「ダイセルイノベーション・パーク(姫路)」で最初に担当したキラルカラム開発が**CHIRALPAK AD**の品質向上でした。大学時代はキラルカラムを使った経験があまりなかったので、キラルカラム開発は**何もかもが新鮮で楽しくて楽しくて仕方がない時期**でした（当時、働き方改革という言葉はありませんでした）。ポリマー合成、充填剤合成、カラム充填、カラム評価などを学びました。ビギナーズラックのお陰か、この品質向上検討は大きな問題も発生せず、テーマ終焉を迎えることができました。

その後暫くの間、キラルカラム開発を離れておりましたが、晴れて再開したのは(今から20年ほど前)新井工場での**CHIRALPAK ADの耐溶剤型カラム＝CHIRALPAK IA**の開発でした。待っていたのは厳しい日々。検討を進めるにつれ、泥沼に入っていきました・・・。「再現性がとれない！」と上市計画がどんどん遅れました。毎日がキツかった・・・。でも、「出口のないトンネルはない！」は正しく、やっとのことで再現性問題をクリアし、上市することができました。
その後、新製品開発は耐溶剤型にシフトし、今では、10品種の多糖誘導体耐溶剤型カラムを取り揃えております。時代と共に、耐溶剤型カラムを使用されるお客様が増える中、コーティング型への愛着を捨て切れないのは私だけでしょうか…。

発行元：株式会社ダイセル　CPIカンパニー

〔東京〕 〒108-8230　東京都港区港南2-18-1　JR品川イーストビル
TEL： 03-6711-8222　　FAX： 03-6711-8228
〔大阪〕 〒530-0011　大阪市北区大深町3-1　グランフロント大阪タワーB
TEL： 06-7639-7221　　FAX： 06-7639-7228

ヘルプデスク　フリーダイヤル ： 0120-780-104　　HP ： https://www.daicelchiral.com/

このメールマガジンは弊社と名刺交換させていただいた方、ユーザー登録・資料請求等のお問い合わせをいただいたお客様を対象に配信しております。
CHIRALCEL、 CHIRALPAK, CROWNPAK, DAICEL DCpak は、日本における株式会社ダイセルの商標です。